

magicolor7300 リファレンスガイドに記されているオーバーレイ印刷について、具体的な利用方法をご案内します。

ご注意: NTをご利用のお客様は下の STEP1 のみ他の WindowsOS で行って下さい。

## オーバーレイ印刷の流れ

STEP1:オーバーレイ印刷に使用する書式データを作成する。

STEP2:ダウンロードマネージャを使用し、STEP1 で作成した書式データを magicolor7300 のハードディスクに転送(保存)する。

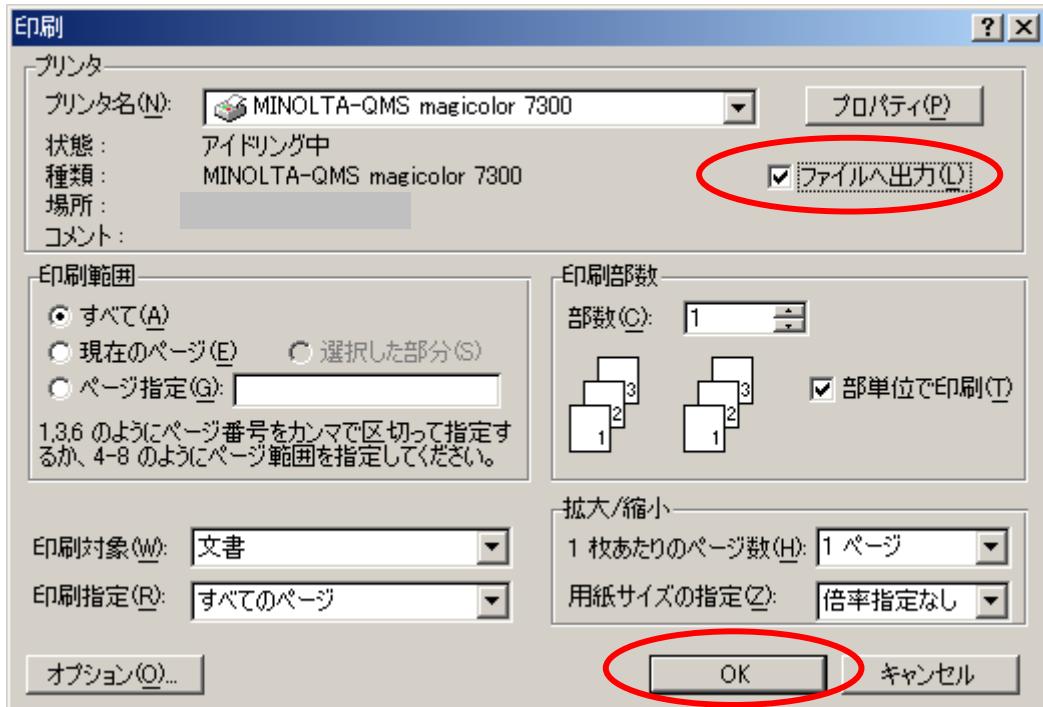
STEP3: STEP2 で転送(保存)した書式データを指定して、実際にオーバーレイ印刷を行う。

では以下に各 STEP の詳細を示します。

### STEP1:オーバーレイ印刷に使用する書式データを作成する。

オーバーレイ印刷に使用する書式データは、以下の手順に従って作成してください。

1. オーバーレイ印刷に使用するデータを開き「ファイル」-「印刷」メニューをクリックします。
2. magicolor7300 プリンタを選択し「ファイルへ出力」をチェックし OK ボタンをクリックします。



3. 保存先を選択し、

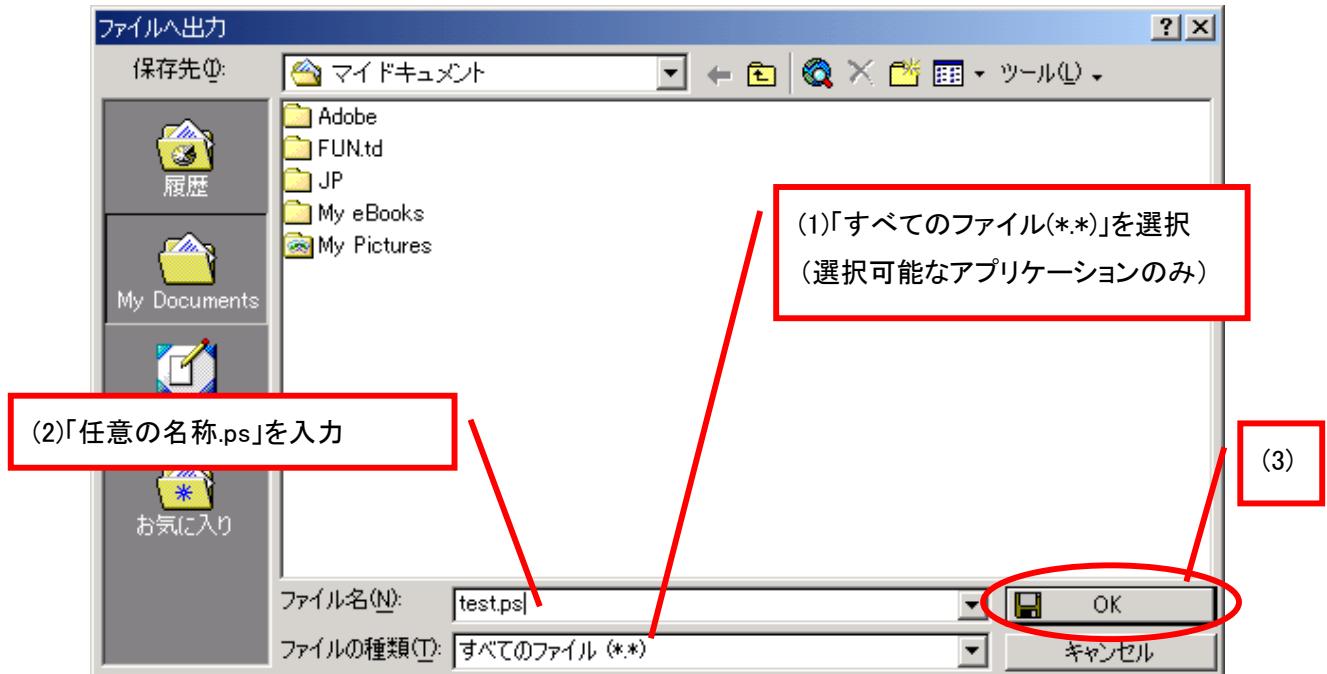
- (1) ファイルの種類:「すべてのファイル(\*\*)」を選択します。

(選択可能なアプリケーションのみ)

- (2) ファイル名:「任意の名称.ps」(拡張子に'.ps'を使用する)を入力します。

ファイル名は、拡張子を除いて半角8文字以内としてください。また、ファイル名に半角のスラッシュ (/)、円記号 (¥)、大なり記号 (>)、小なり記号 (<)、アスタリスク (\*)、疑問符 (?)、ダブル クオーテーション (")、縦棒 (|)、コロン (:)、およびセミコロン (;) は使用できません。

3) OK ボタンをクリックします。



4. スタート/プログラム/アクセサリ/ワードパッドを起動し、3で作成したファイルを開きます。

5. 以下の手順に従い書式データを作成していきます。

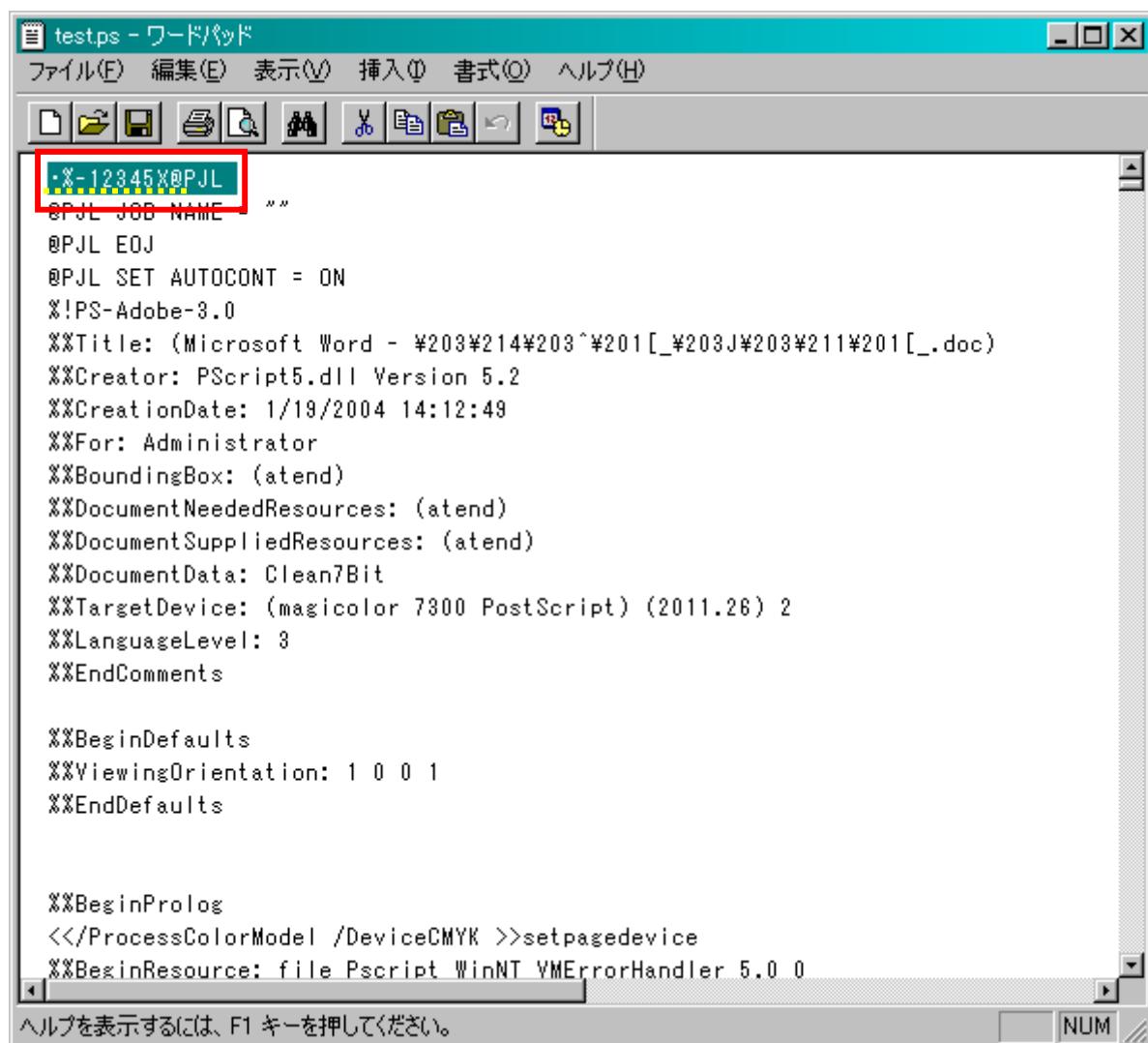
尚、Windows98/Meをお使いのお客様は下の(1)～(7)を、

上記以外のWindowsOSをお使いのお客様は下の(1)～(6)までを行ってください。

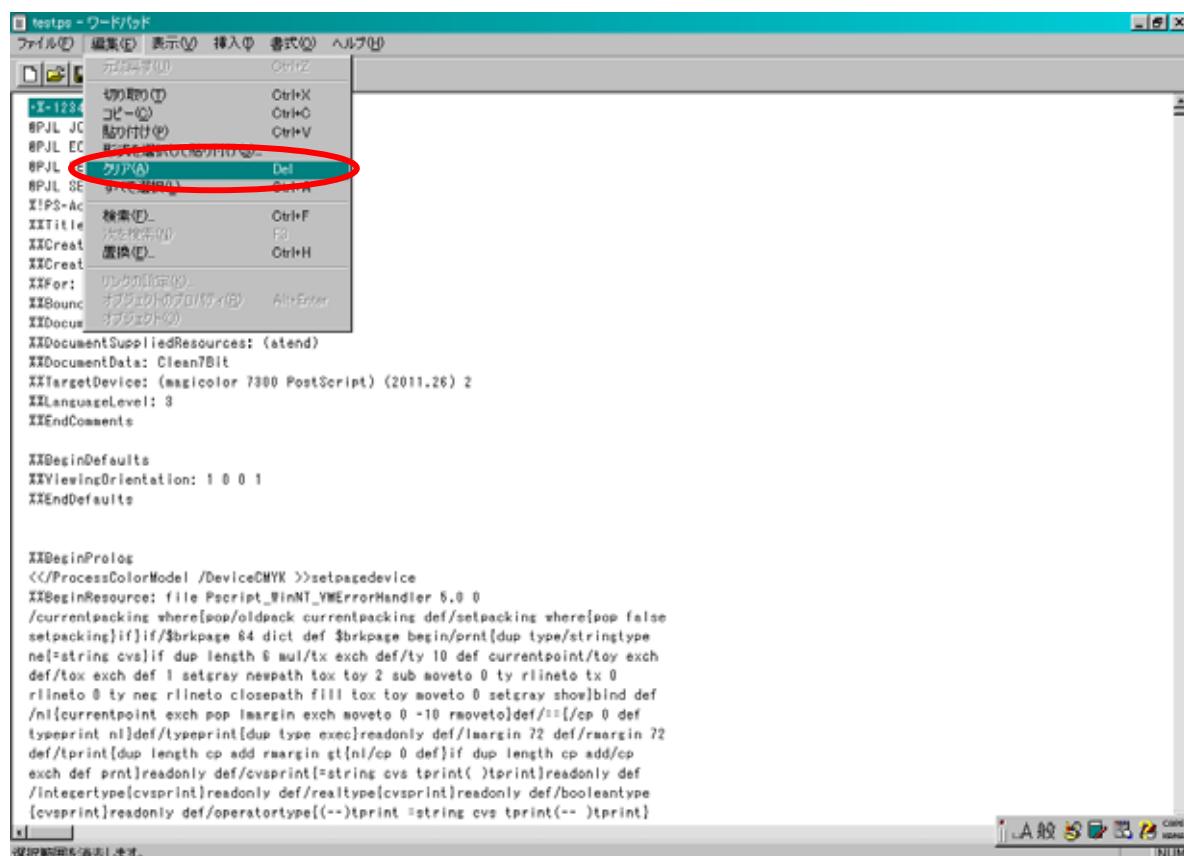
(1)「編集」-「検索」メニューで検索する文字列: '%-12345x' を入力し、「次を検索」ボタンをクリックします。



(2) ‘%-12345x’を含む行全体を選択します。(下の例では‘%-12345x@PJL’が選ばれています。)



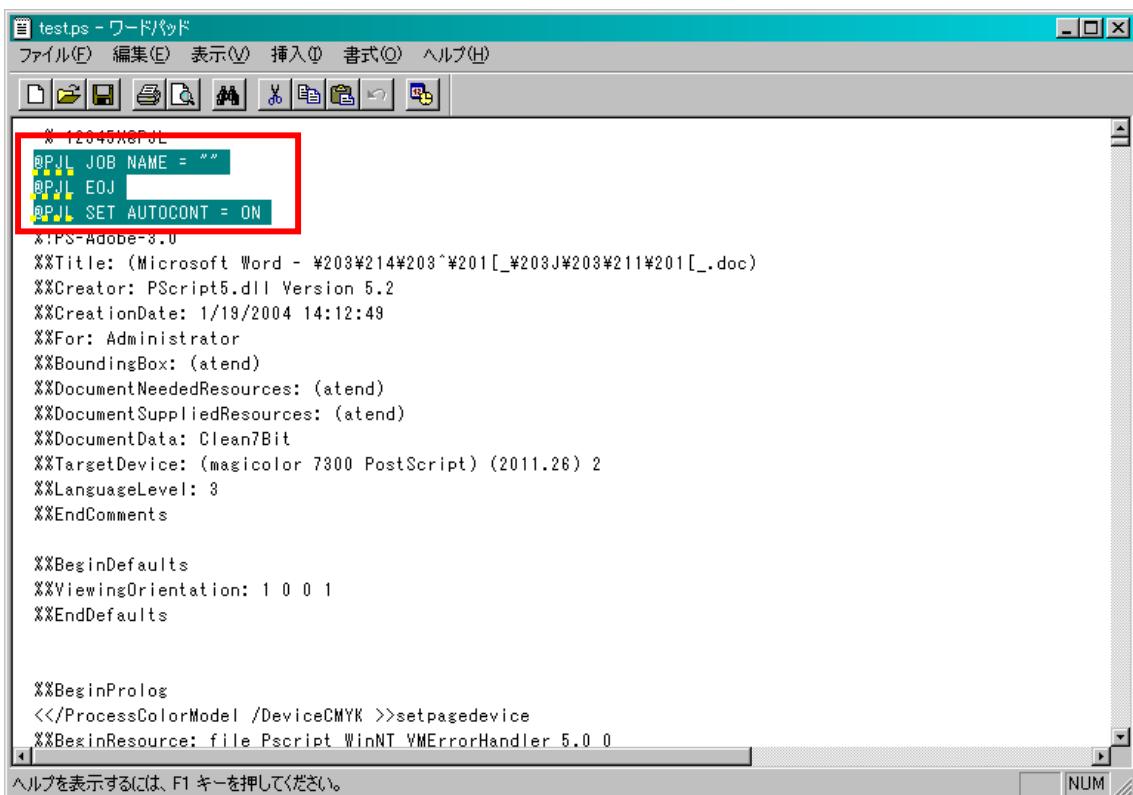
(3) メニューバーより「編集」-「クリア」します。



(4)次のメッセージが表示されるまで、(1)～(3)を繰り返します。



(5) (1)～(4)と同様の方法で'@pjl'で始まる行を検索し、すべて削除します。



(6) (1)～(4)と同様の方法で' **setpagedevice**' を含む文字列を検索し、

' <<' で始まり' >> **setpagedevice**' で終わる文字列を削除します。

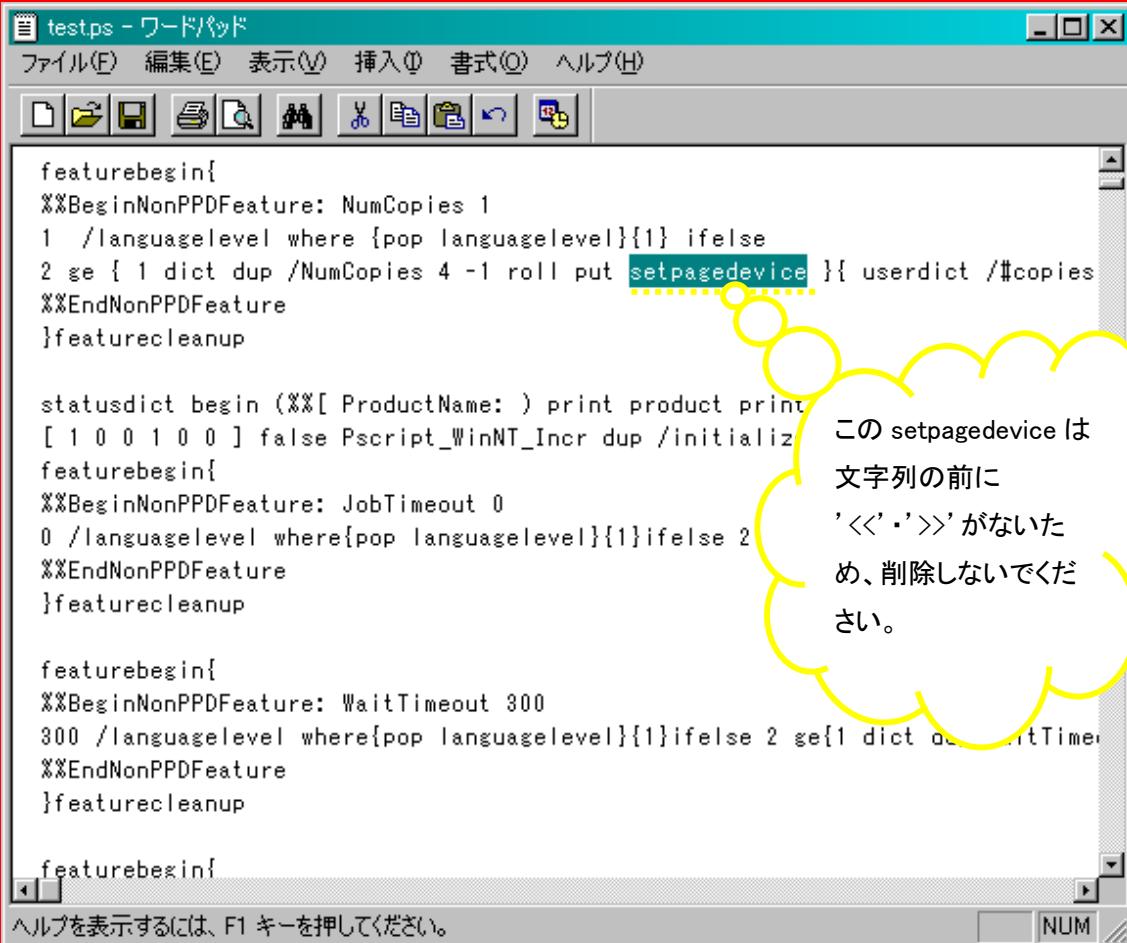
この組み合わせが構成されない場合は削除しません。

削除しない場合、削除する場合の例を示します。

\* ひとつも検索されない場合にはそのまま次に進んでください。

### 削除しない場合

下のよう' **setpagedevice**' のみが存在する場合は削除しないでください。



```
featurebegin{
%%BeginNonPPDFeature: NumCopies 1
1 /languagelevel where {pop languagelevel}{1} ifelse
2 ge { 1 dict dup /NumCopies 4 -1 roll put setpagedevice }{ userdict /#copies
%%EndNonPPDFeature
}featurecleanup

statusdict begin (%%[ ProductName: ) print product print
[ 1 0 0 1 0 0 ] false Pscript_WinNT_Incr dup /initializ
featurebegin{
%%BeginNonPPDFeature: JobTimeout 0
0 /languagelevel where{pop languagelevel}{1}ifelse 2
%%EndNonPPDFeature
}featurecleanup

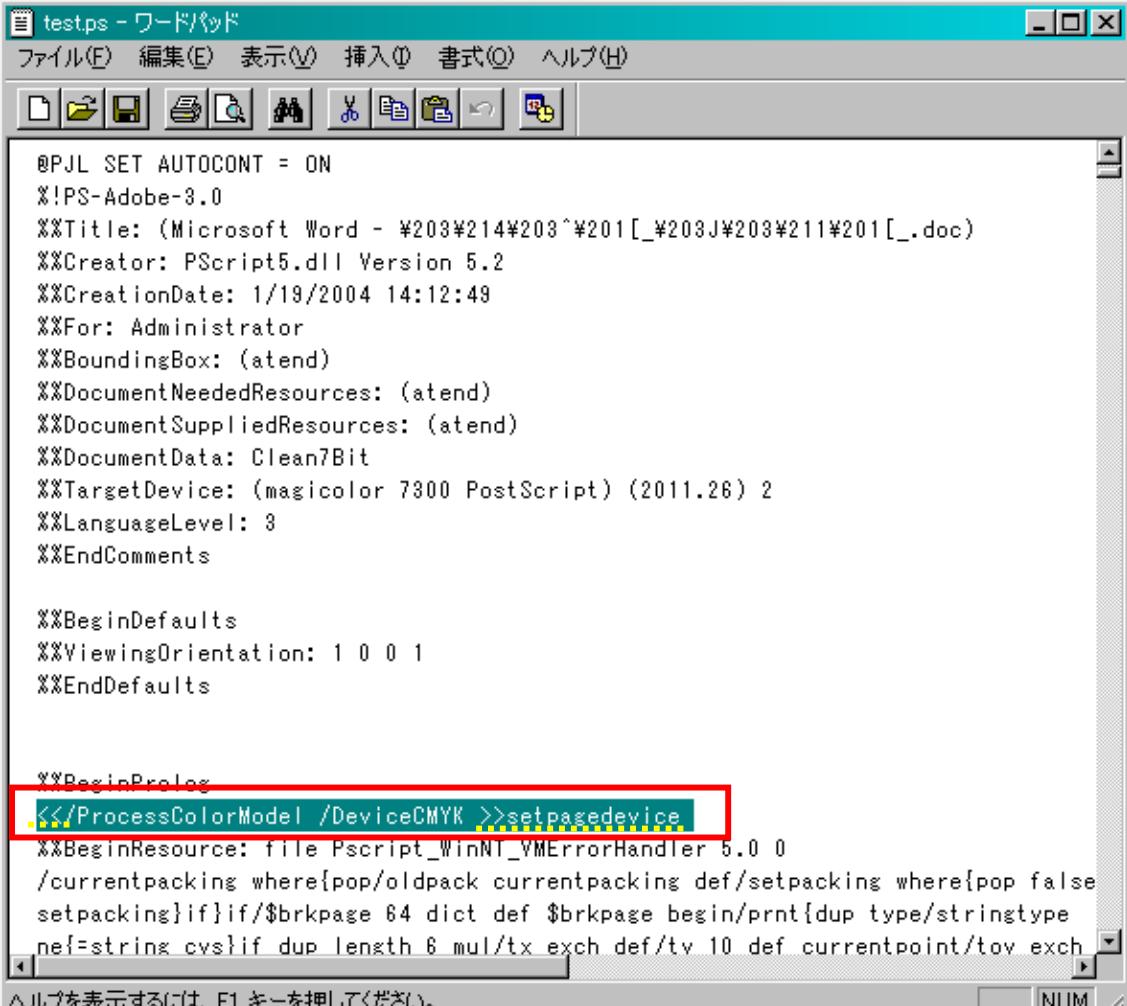
featurebegin{
%%BeginNonPPDFeature: WaitTimeout 300
300 /languagelevel where{pop languagelevel}{1}ifelse 2 ge{1 dict ad
%%EndNonPPDFeature
}featurecleanup

featurebegin{
```

この **setpagedevice** は  
文字列の前に  
' <<'・' >>' がないた  
め、削除しないでくだ  
さい。

## ・削除する場合の例1

'<<'で始まり'>> **setpagedevice**'で終わる行を削除します。



```
OPJL SET AUTOCONT = ON
%!PS-Adobe-3.0
%%Title: (Microsoft Word - ¥203¥214¥203¥201[_¥203J¥203¥211¥201[_].doc)
%%Creator: PScript5.dll Version 5.2
%%CreationDate: 1/19/2004 14:12:49
%%For: Administrator
%%BoundingBox: (atend)
%%DocumentNeededResources: (atend)
%%DocumentSuppliedResources: (atend)
%%DocumentData: Clean7Bit
%%TargetDevice: (magicolor 7300 PostScript) (2011.26) 2
%%LanguageLevel: 3
%%EndComments

%%BeginDefaults
%%ViewingOrientation: 1 0 0 1
%%EndDefaults

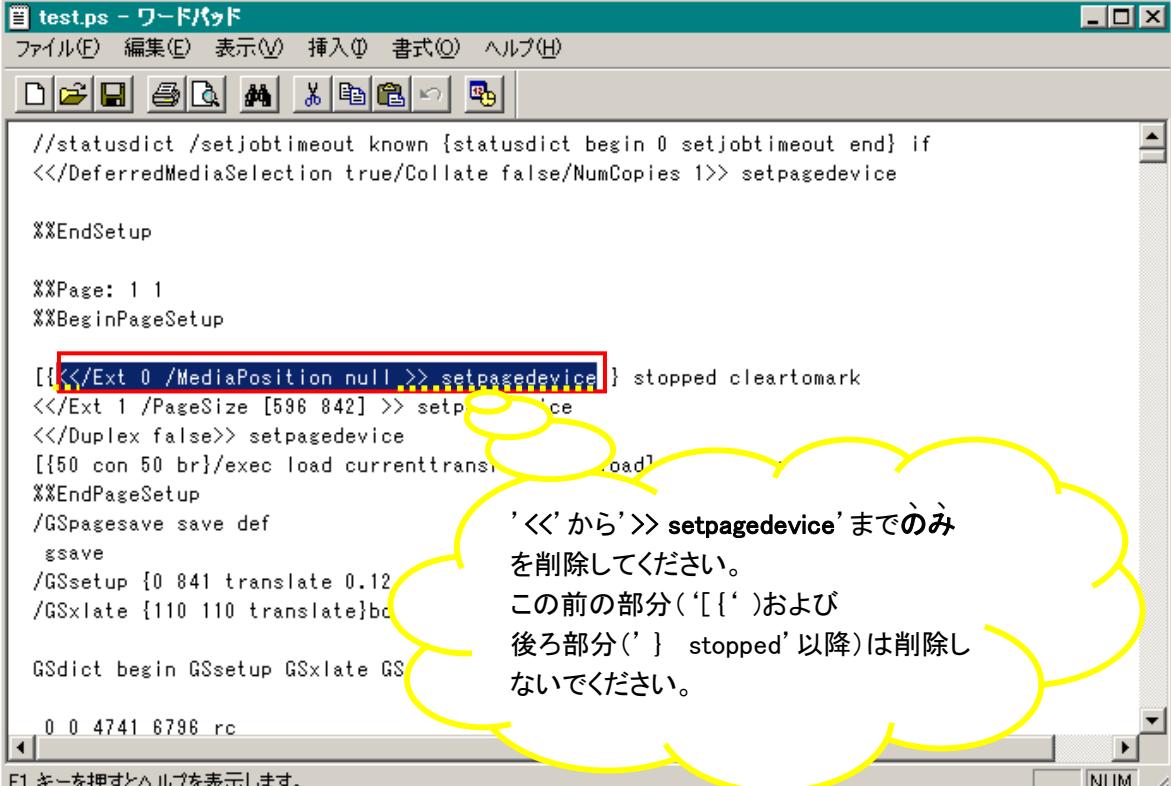
%%BeginProlog
<</ProcessColorModel /DeviceCMYK >> setpagedevice
%%BeginResource: file Pscript_WinNT_VMErrorHandler 5.0 0
/currentpacking where{pop/oldpack currentpacking def/setpacking where{pop false
setpacking}if}if/$brkpage 64 dict def $brkpage begin/prnt{dup type/stringtype
nef=string cvs}if dup length 6 mul/tx exch def/tx 10 def currentpoint/tov exch

```

ヘルプを表示するには、F1 キーを押してください。

## ・削除する場合の例2

'<<'で始まり'>> **setpagedevice**'で終わる文字列も削除します。



```
//statusdict /setjobtimeout known {statusdict begin 0 setjobtimeout end} if
<</DeferredMediaSelection true/Collate false/NumCopies 1>> setpagedevice

%%EndSetup

%%Page: 1 1
%%BeginPageSetup

[<</Ext 0 /MediaPosition null >> setpagedevice] stopped cleartomark
<</Ext 1 /PageSize [596 842] >> setpagedevice
<</Duplex false>> setpagedevice
[[50 con 50 br]/exec load currenttrans load]
%%EndPageSetup
/GSpagesave save def
gsave
/GSsetup {0 841 translate 0.12
/GSxlate {110 110 translate}bc
GSdict begin GSsetup GSxlate GS
0 0 4741 6796 rc

```

F1 キーを押すとヘルプを表示します。

(7) (1)~(4)と同様の方法で'featurebegin{'で始まる行を検索し、

'featurebegin['で始まり' }featurecleanup'で終わる行(間の行も含む)を削除します。

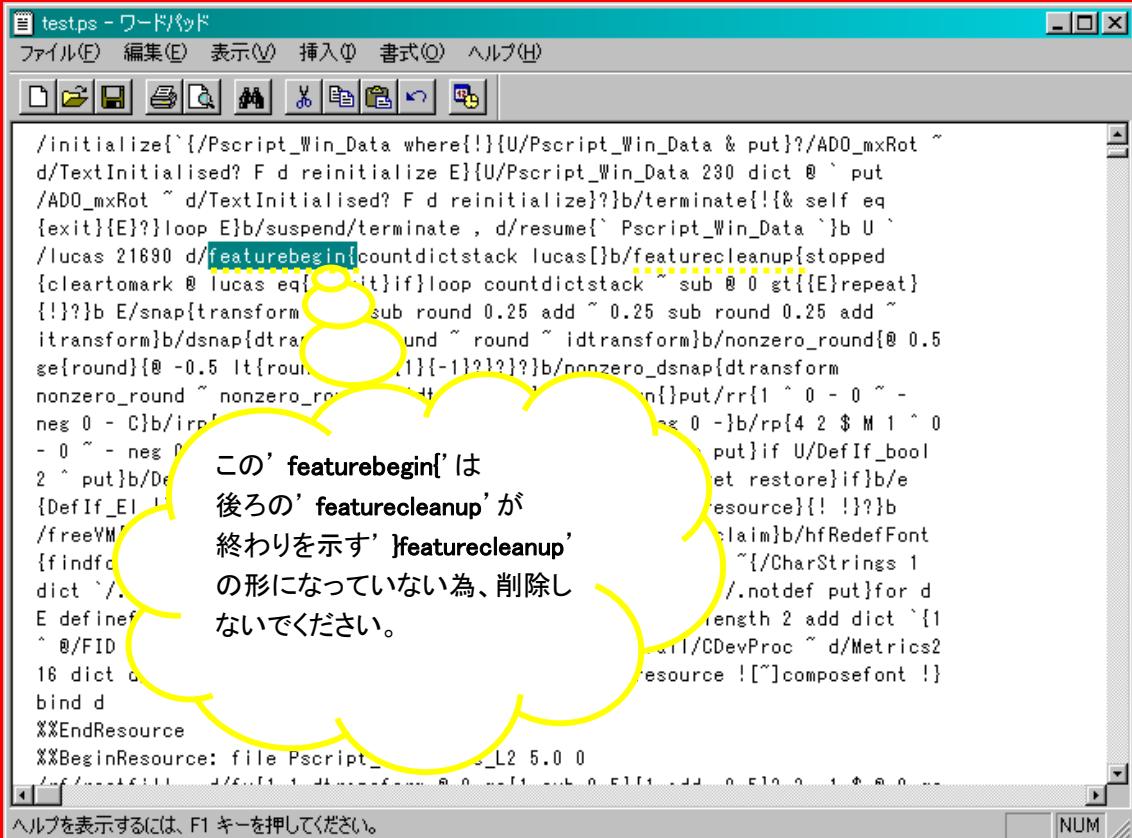
この組み合わせが構成されない場合は削除しません。

削除しない場合、削除する場合の例を示します。

\* ひとつも検索されない場合にはそのまま次に進んでください。

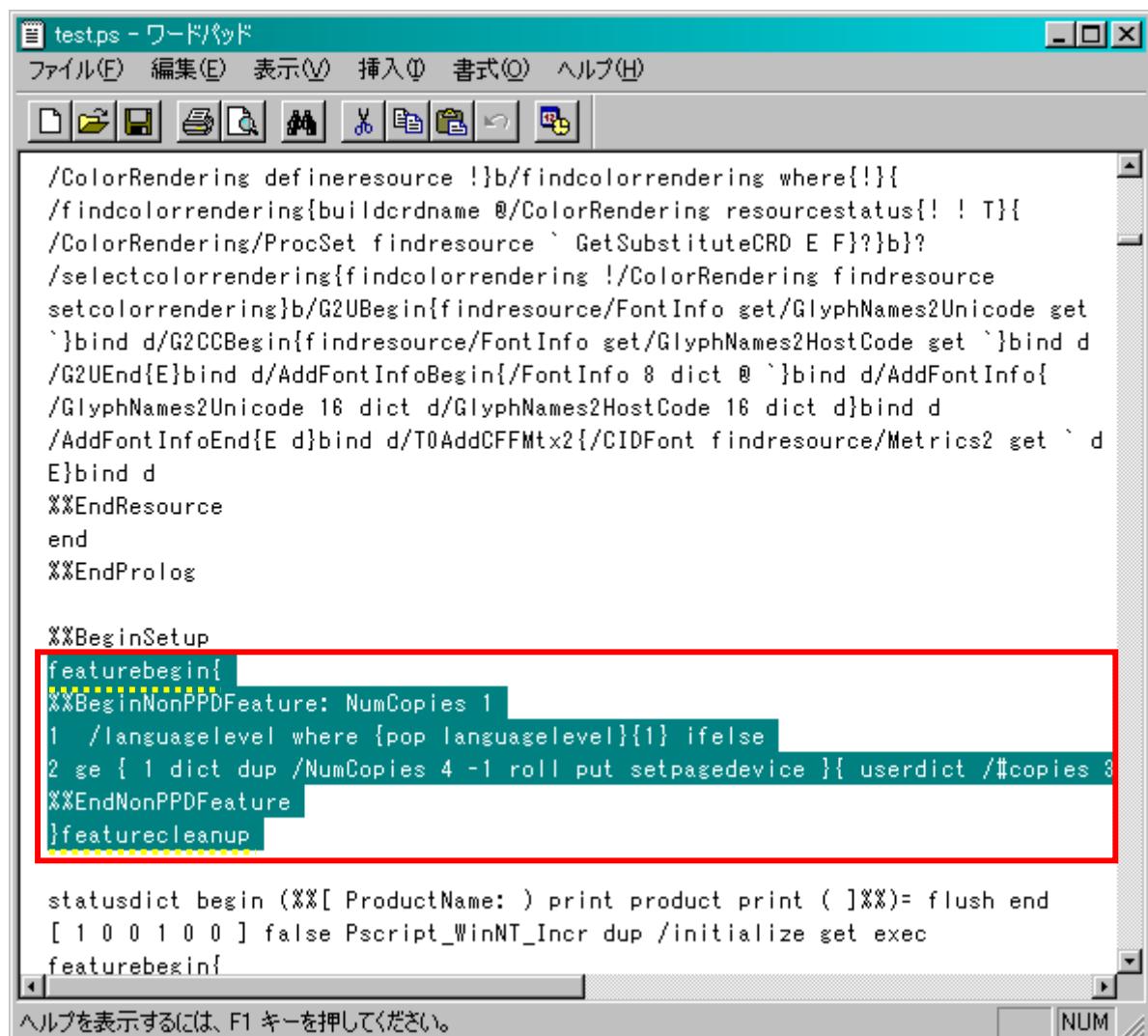
## 削除しない場合

下のように'featurebegin['のみが存在する場合は削除しないでください。



## 削除する場合

'featurebegin['で始まり' ]featurecleanup'で終わる行(間の行も含む)を削除します。



```
/ColorRendering defineresource !}b/findcolorrendering where{!}{

/findcolorrendering{buildcrdname @/ColorRendering resourcestatus{! ! T}{

/ColorRendering/ProcSet findresource ` GetSubstituteCRD E F}?}b}?

/selectcolorrendering{findcolorrendering !/ColorRendering findresource
setcolorrendering}b/G2UBegin{findresource/FontInfo get/GlyphNames2Unicode get
`}bind d/G2CCBegin{findresource/FontInfo get/GlyphNames2HostCode get `}bind d
/G2UEnd{E}bind d/AddFontInfoBegin{/FontInfo 8 dict @ `}bind d/AddFontInfo{
/GlyphNames2Unicode 16 dict d/GlyphNames2HostCode 16 dict d}bind d
/AddFontInfoEnd{E d}bind d/T0AddCFFMtx2{/CIDFont findresource/Metrics2 get ` d
E}bind d

%%EndResource
end
%%EndProlog

%%BeginSetup
featurebegin{
%%BeginNonPPDFeature: NumCopies 1
1 /languagelevel where {pop languagelevel}{1} ifelse
2 ge { 1 dict dup /NumCopies 4 -1 roll put setpagedevice }{ userdict /#copies 8
%%EndNonPPDFeature
}featurecleanup

statusdict begin (%%[ ProductName: ) print product print ( ]%%)= flush end
[ 1 0 0 1 0 0 ] false Pscript_WinNT_Incr dup /initialize get exec
featurebegin{

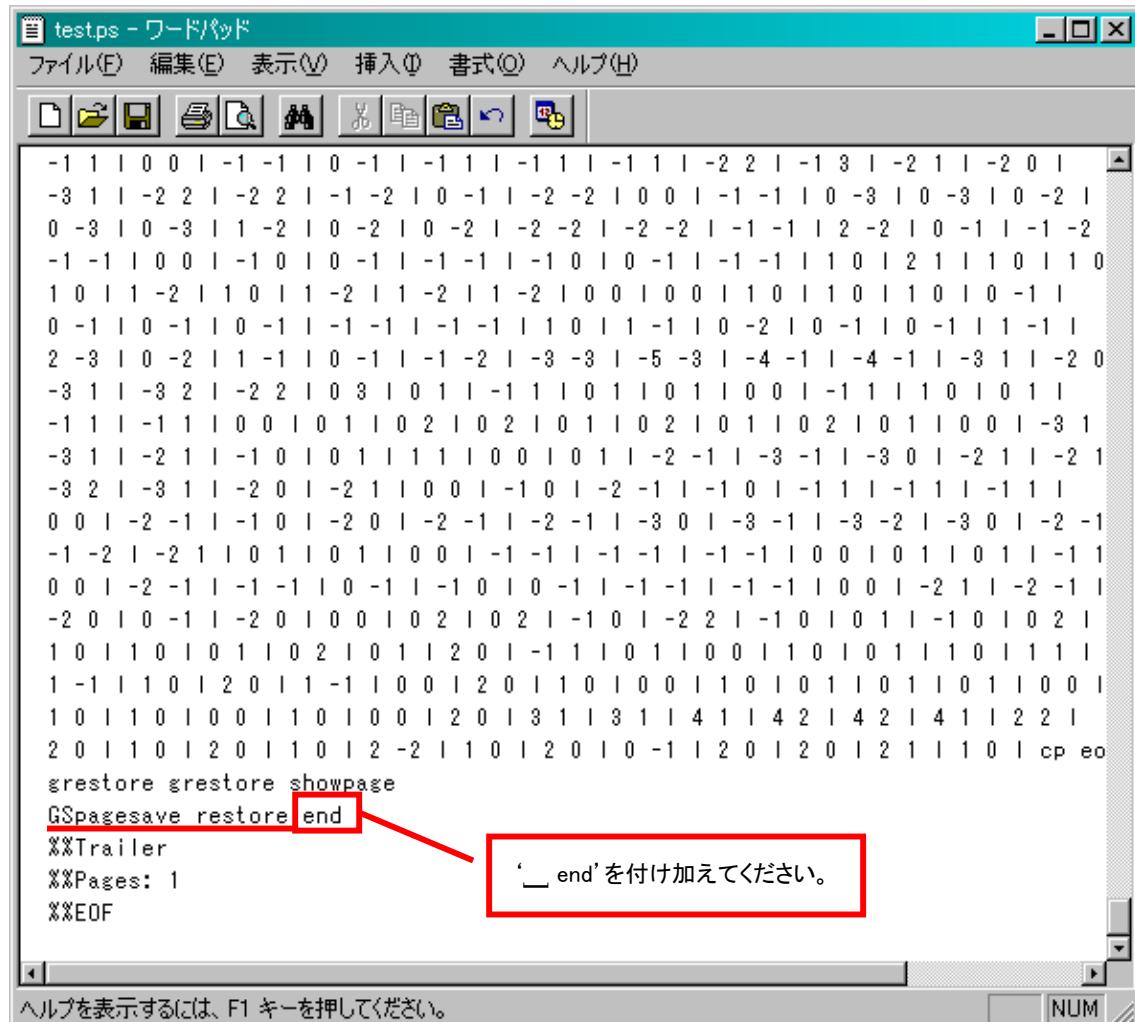


ヘルプを表示するには、F1 キーを押してください。
```

(8) OS が Windows98/Me をお使いのお客様はさらにこの(8)を行なってください。

(1) と同様の方法で' Gspagesave restore 'を含む行を検索します。

この行はいくつかありますが、一番最後の' Gspagesave restore 'に  
' end' を付け加えてください。(一箇所のみ)

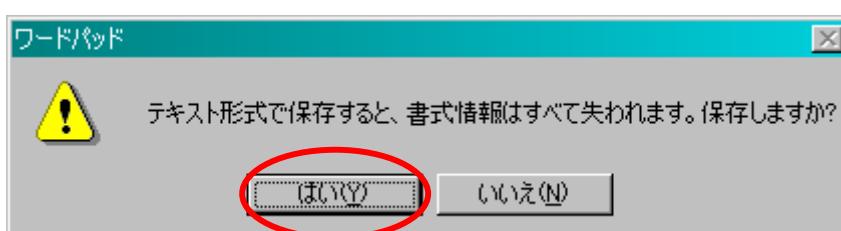


```
-1 1 | 0 0 | -1 -1 | 0 -1 | -1 1 | -1 1 | -1 1 | -2 2 | -1 3 | -2 1 | -2 0 |
-3 1 | -2 2 | -2 2 | -1 -2 | 0 -1 | -2 -2 | 0 0 | -1 -1 | 0 -3 | 0 -3 | 0 -2 |
0 -3 | 0 -3 | 1 1 -2 | 0 -2 | 0 -2 | -2 -2 | -2 -2 | -1 -1 | 2 -2 | 0 -1 | -1 -2 |
-1 -1 | 0 0 | -1 0 | 0 -1 | -1 -1 | -1 0 | 0 -1 | -1 -1 | 1 0 | 2 1 | 1 0 | 1 0 |
1 0 | 1 1 -2 | 1 0 | 1 1 -2 | 1 1 -2 | 0 0 | 0 0 | 1 0 | 1 0 | 1 0 | 1 0 | 0 -1 |
0 -1 | 0 -1 | 0 -1 | -1 -1 | -1 -1 | 1 0 | 1 1 -1 | 0 -2 | 0 -1 | 0 -1 | 1 1 -1 |
2 -3 | 0 -2 | 1 1 -1 | 0 -1 | -1 -2 | -3 -3 | -5 -3 | -4 -1 | -4 -1 | -3 1 | -2 0 |
-3 1 | -3 2 | -2 2 | 0 3 | 0 1 | -1 1 | 0 1 | 0 1 | 0 0 | -1 1 | 1 0 | 0 1 |
-1 1 | -1 1 | 0 0 | 0 1 | 0 2 | 0 2 | 0 1 | 0 2 | 0 1 | 0 2 | 0 1 | 0 0 | -3 1 |
-3 1 | -2 1 | -1 0 | 0 1 | 1 1 | 0 0 | 0 1 | 0 1 | -2 -1 | -3 -1 | -3 0 | -2 1 | -2 1 |
-3 2 | -3 1 | -2 0 | -2 1 | 0 0 | -1 0 | -2 -1 | -1 0 | -1 1 | -1 1 | -1 1 | -1 1 |
0 0 | -2 -1 | -1 0 | -2 0 | -2 -1 | -2 -1 | -3 0 | -3 -1 | -3 -2 | -3 0 | -2 -1 |
-1 -2 | -2 1 | 0 1 | 0 1 | 0 0 | -1 -1 | -1 -1 | -1 -1 | 0 0 | 0 1 | 0 1 | -1 1 |
0 0 | -2 -1 | -1 0 | -1 0 | -1 0 | 0 -1 | -1 -1 | -1 -1 | 0 0 | -2 1 | -2 -1 |
-2 0 | 0 -1 | -2 0 | 0 0 | 0 2 | 0 2 | -1 0 | -2 2 | -1 0 | 0 1 | -1 0 | 0 2 |
1 0 | 1 0 | 0 1 | 0 2 | 0 1 | 2 0 | -1 1 | 0 1 | 0 0 | 1 0 | 0 1 | 0 1 | 1 0 | 1 1 |
1 -1 | 1 0 | 2 0 | 1 1 -1 | 0 0 | 2 0 | 1 1 0 | 0 0 | 1 0 | 0 1 | 0 1 | 0 1 | 0 0 |
1 0 | 1 0 | 0 0 | 1 0 | 0 0 | 2 0 | 1 3 1 | 3 1 | 4 1 | 4 2 | 4 2 | 4 1 | 2 2 |
2 0 | 1 0 | 2 0 | 1 1 0 | 2 -2 | 1 1 0 | 2 0 | 0 -1 | 2 0 | 2 0 | 1 2 1 | 1 0 | cp eo
grestore grestore showpage
GSpagesave restore end
%%Trailer
%%Pages: 1
%%EOF
```

‘end’を付け加えてください。

作成したファイルを「上書き保存」します。

この際以下のメッセージが表示される場合がありますが、「はい」ボタンをクリックして  
保存してください。



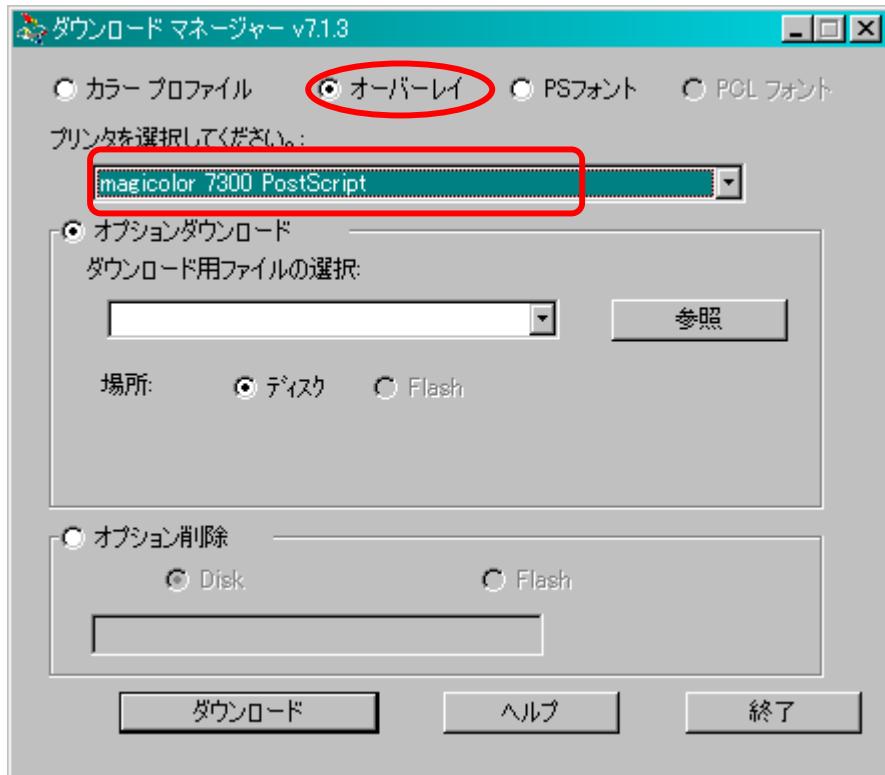
以上で書式データの完成です。

STEP2:ダウンロードマネージャを使用し、STEP1 で作成した書式データを magicolor7300 のハードディスクに転送(保存)する。

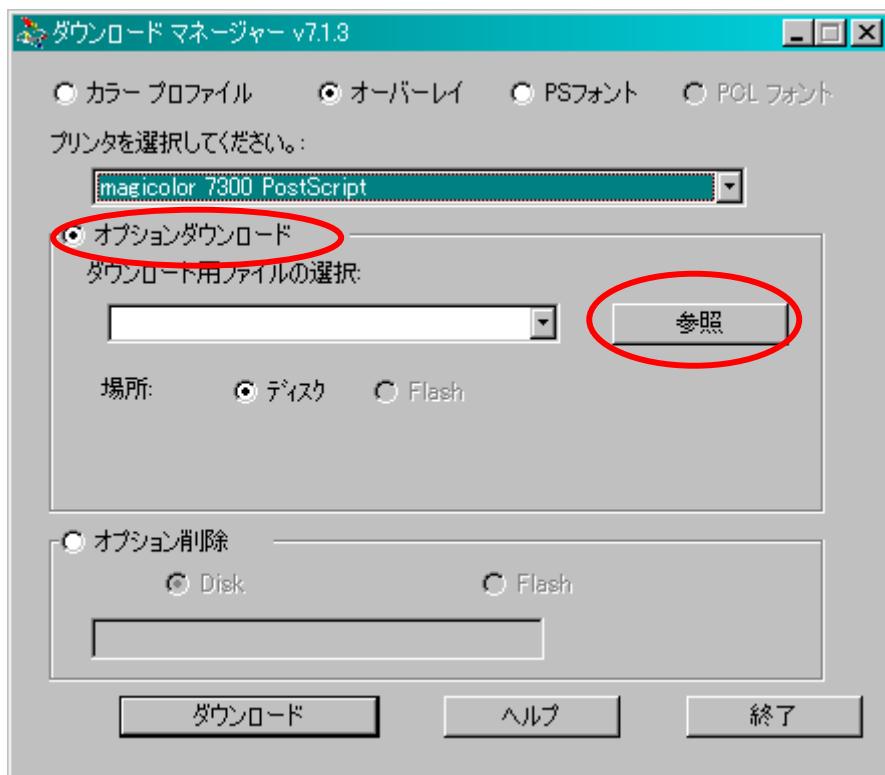
- \* ダウンロードマネージャのインストール方法、起動方法は  
magicolor7300 リファレンスガイド‘3.4 章ダウンロードマネージャ’(P120～)をご参照ください。

1. ダウンロードマネージャを起動します。
2. 一行目の選択肢から「オーバーレイ」を選択します。

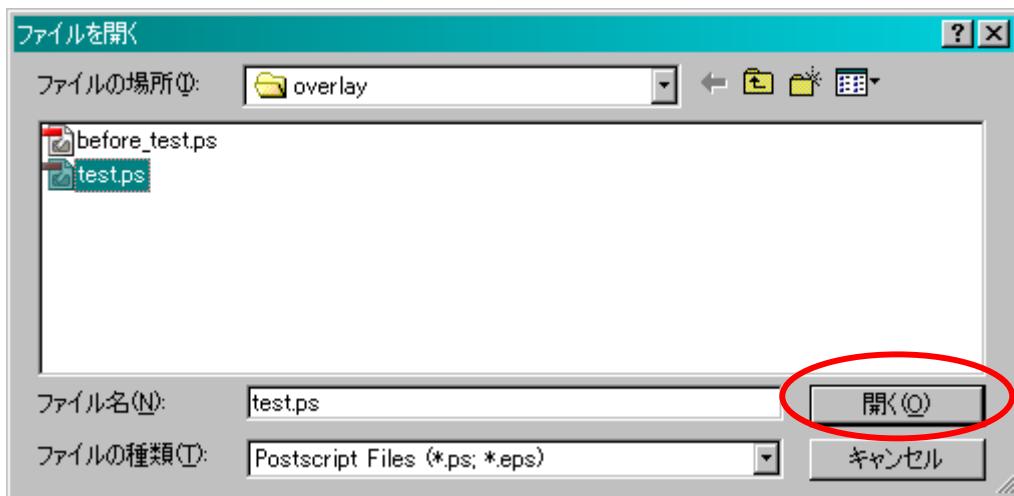
プリンタは magicolor7300(実際の名称はプリンタドライバインストール時の設定により異なります。)を選択します。



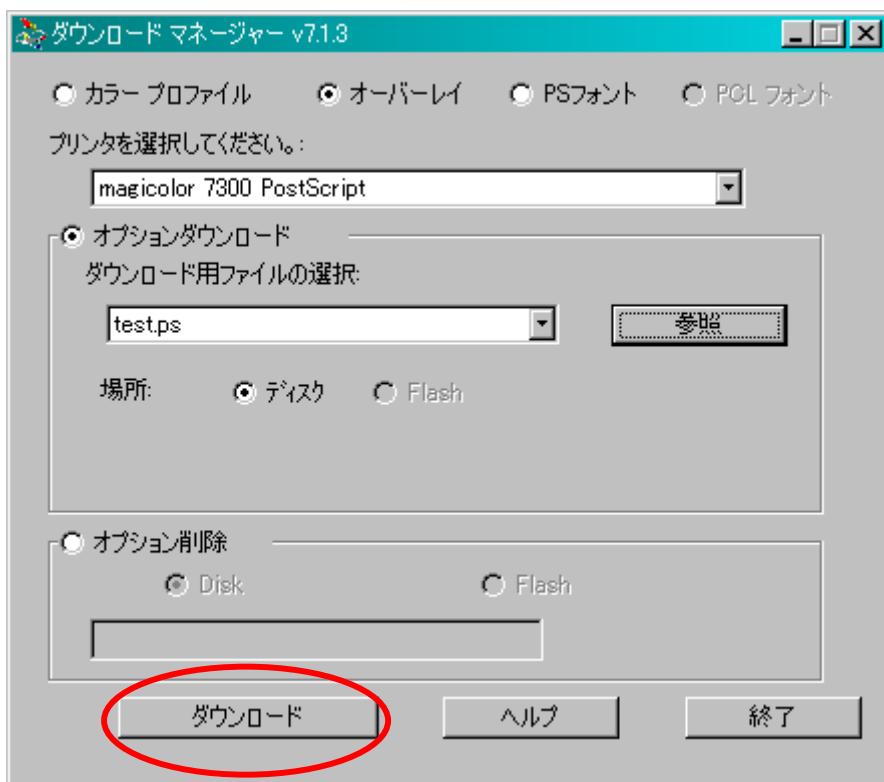
3. オプションダウンロードがチェックされていることを確認し、参照ボタンをクリックします。



4. STEP1 で作成した書式データの保存先を指定し、開くボタンをクリックします。

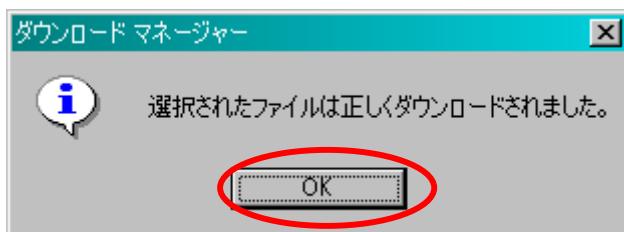


5. ダウンロードボタンをクリックします。



6. 以下のメッセージが表示されることを確認してください。

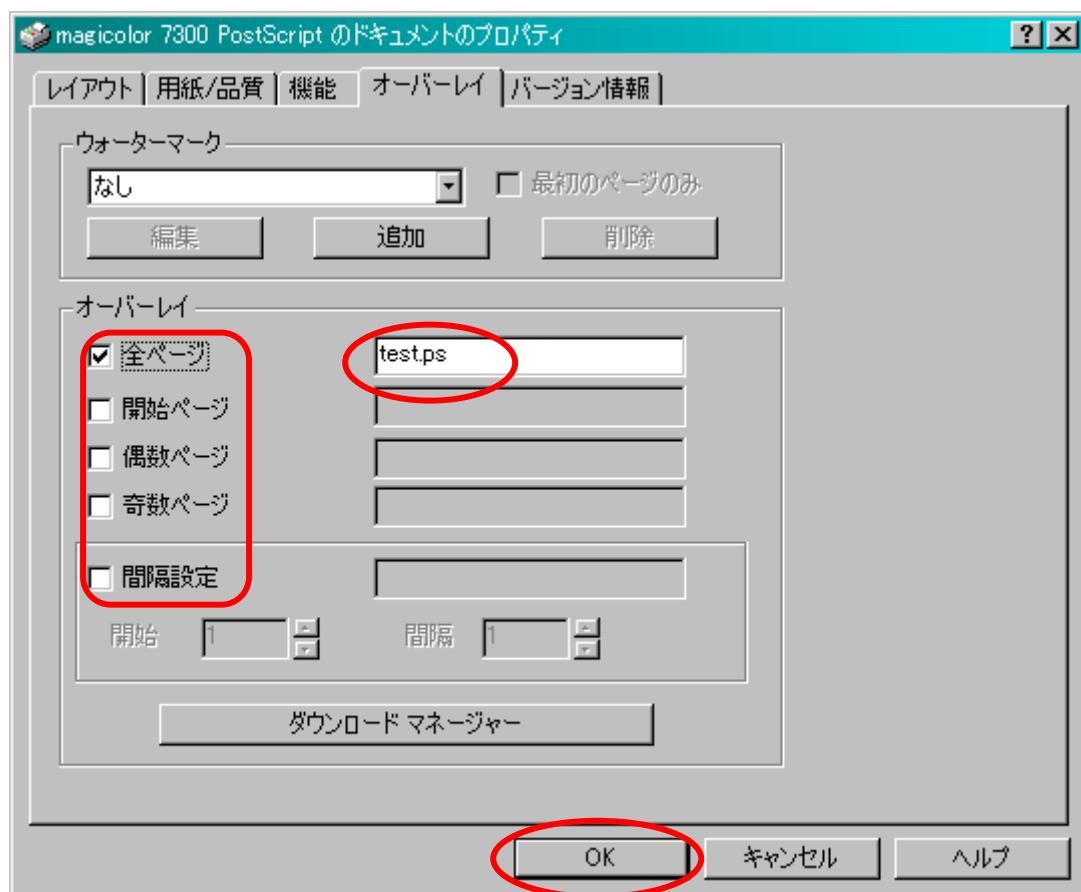
OK ボタンを押し、この画面を閉じます。



7. 5の画面に戻りますので終了ボタンをクリックし、ダウンロードマネージャーを終了します。

STEP3: STEP2 で転送(保存)した書式データを指定して、  
実際にオーバーレイ印刷を行う。

1. オーバーレイ印刷を行うファイルを開きます。
2. 「ファイル」→「印刷」(アプリケーションによって「プリント」の場合もあります。) ウィンドウの「プロパティボタン」をクリックします。
3. オーバーレイ印刷を行うページを  
全ページ・開始ページ・偶数ページ・奇数ページ・間隔設定  
より選択し(組み合わせも可能です。)、STEP1 で作成した書式データの名称を  
右のボックスに入力し、OK ボタンをクリックします。



4. 「印刷」ウィンドウにもどり印刷します。